「自殺考えた」10代後半の3割

「学校の問題」理由最多　日本財団が調査

子どもが追い詰められている。日本財団の第4回自殺意識調査では、10代後半の3割が「本気で死にたいと考えたことがある」と答えた。大人ができることは何か。

自殺統計によると、2020年の自殺者数は2万1081人。10年から減り続けていたが、コロナ禍などを背景に増加に転じた。21年版自殺対策白書では、20年と過去5年の平均値を比較すると、20歳未満（無職・同居人あり）は179人増え、38％増となった。全年代で増加率、増加数ともに最多だった。

日本財団は21年4月、インターネットで全国の15～79歳と首都圏の13、14歳の男女を対象に調査。16～18年の3回の調査では含めなかった18歳未満をはじめて対象に加えた。29万1810人（うち13、14歳は602人）の依頼に対し、有効回答は2万人（同1000人）だった。

年代間の比較が可能な15歳以上の結果によると、「これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことはあるか」との質問に対し、「ある」と回答したのは15～19歳と30代が32％、20代が31％。全年代平均は24％で、若年層の高さが目立つ。60代以上は15％だった。

そう考えた理由を複数回答で尋ねたところ、15～19歳は「学校問題（いじめ、学業不振、教師との人間関係など）」が最多の63％。「家庭問題」の49％、「健康問題」44％が続いた。

自殺未遂についても聞いた。これまでに自殺未遂をしたことがある、と答えた人は全年代では6％だったが、15～19歳は10％。

自殺をめぐる報道にも影響されている様子がうかがえる。著名人の自殺に関するニュースや記事を見た後、「自殺のことを繰り返し考えることがある」と答えた割合は、10代後半は40％。全世代は28％だった。

若者への支援や研究に取り組むNPO法人ユースハート（千葉県船橋市）の稲場夢有理事長は「コロナ禍で、特に若い世代で人とのつながりの希薄さに伴うゆううつな気分やうつ状態が強まったのだろう。相談先のさらなる周知を図っていく必要がある」と話す。

9月末、国の自殺総合対策会議が開かれ、来夏に自殺総合対策大綱を見直す方針が決まった。厚生労働省の担当者によると、子どもや女性の対策を中心に議論される見通しという。

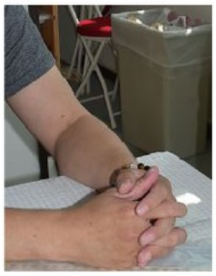
■主な相談先

【電話】
- よりそいホットライン
  0120・279・338
  岩手、宮城、福島各県からは
  0120・279・226
- チャイルドライン（18歳まで）
  0120・99・7777
- こころの健康相談統一ダイヤル
  0570・064・556
- いのちの電話
  0570・783・556

【LINE】
- NPO法人自殺対策支援センターライフリンク（ID検索＝@yorisoi-chat）

※厚生労働省のホームページから

中1長男失った父 つきぬ悲しみ



長男の自殺を悔やむ父親＝2018年撮影、仙台市

2014年9月、仙台市立中学1年生の長男（当時12）が自殺を図り、1週間後に息を引き取った。50代の父親は、今も長男を思い出さない日はない。悔しさと悲しさが入り交じった感情を抱き続ける。

長男は、中学校の同級生に仲間外れなどのいじめを受けた。学校を休むと「ずる休み」と消しゴムのかすを投げつけられた。

「いじめられている」。長男から打ち明けられた父親は「ひるむな。立ち向かえ」と勇気づけた。格闘技を教えて強くさせようとした。だが、父親は県外に単身赴任で、長男は格闘技の練習を辞めた。長男は父親が住む県外に引っ越しを願ったが、父親は仕事の都合で単身赴任が近く解消されると思い、断った。「あのとき、なぜ連れ出してやらなかったのか。つらい学校から逃がしてやれば良かった」

市教委の第三者委員会は、「いじめと自殺に関連性があると考えられる」と結論づけた。父親側はいじめに関わった生徒や市を相手に提訴。20年3月に和解した。

しかし、父親は本心から納得できないでいる。なぜ長男がいじめられたのか、腑に落ちないからだ。

脳裏に浮かぶのは、亡くなる前月に家族で海に行った時に見せた長男の笑顔だ。「コロナもあって子どもはストレスを抱えている。子どもの話をしっかり聞いてやることが何より大事だと思う」

父親を支援した全国自死遺族連絡会の田中幸子代表理事(72)は、「亡くなった原因を究明することなしに再発防止はありえない。子どもたちが幸せと思える環境をつくるのは大人の責任だ」と話す。（井上充昌）

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.